

## ライトノベルにおける 物語展開パターンの構造化および分析

原口 良介

近年、「ライトノベル」と呼ばれる文芸作品群が大量に出版されている。

最近ではライトノベルに対する研究は盛んに行われるようになってきたが、それらの多くは作品が描く「物語」のテーマ性や時代性を分析する人文的な研究であり、物語の構造や場面間の関係性を客観的に分析する計量的な研究は少ない。しかし、この物語の構造や場面間の関係性に対して計量的な分析を行うことは、ライトノベルを理解する上で重要な意味を持つと考えた。なぜならば、ライトノベルという作品群が内包する物語の構造には、類型的な特徴が存在していると推測されるからである。この類型的な特徴を発見することができれば、ライトノベルの主な読者層である青少年に関して、その読書に対する嗜好を解き明かす一助となるはずである。

本研究は、この「ライトノベル」と呼ばれる文芸作品群の特徴(類型性)を、物語展開パターン(構造)に着目して可能な限り客観的に明らかにするものである。

ただし、このライトノベルの類型的な特徴を取り扱った研究は少ない。特定の作品を対象として類型を提示する研究は存在するが、最終的にライトノベル全体を分類・分析するには至っていない。実際に、ライトノベルという作品群全体に当てはまる類型を客観的に発見するには、十分な資料を対象とした計量的な分類と分析が必要だからである。とはいえ、ライトノベルに分類することができる作品の数は把握できないほど膨大であり、全てのライトノベルを対象として研究を行うことは現実的に不可能といえる。つまり、ライトノベルの類型を発見するための分類・分析を行うためには、対象となる資料群を効率的に限定する必要がある。

そこで、本研究では物語分類において古典的な手法であるウラジミール・プロップの研究を参考に、対象資料を100冊に限定して分析を行った。

分析では、まず人文的手法であるプロット分析とプロップ分類を利用し、物語を場面によって分割した上で、それぞれの場面を101の項目に分類し記号を与えた。次にその記号を各資料にあてはめ、対象資料100冊の物語の記号化を行った。そうして記号化した物語をbigramによって計量的に分析することで、ライトノベルで特徴的に現れる物語展開パターンの発見を試みた。

結果、ライトノベルという物語で中心となる展開パターンの幾つかが明らかになった。最も顕著に現れたのは「登場人物同士の肯定的なやりとりによって真相(情報)が明かされていく」という場面であった。ライトノベルが登場人物(キャラクター)を中心とした小説であるという指摘は、従来主観的のものであったが、本研究によって客観的にも示すことができたといえる。また、ライトノベルの構造を記号的に分析することが可能だと示したことによって、今後ライトノベルという新しい文芸作品群に対する理解が進むと考える。

(指導教員 鈴木伸崇)